

国際開発協会 (IDA) 第15次増資概要

i. 本文書には、背景データおよび分析結果が掲載されており、国際援助構造における IDA の役割についての今後の議論に具体的な情報を提供するものである。政府開発援助 (ODA) の流れにおける一般的傾向、複雑さを増す現在の国際援助構造、今後の見通しならびにドナー・コミュニティが直面するであろう課題についても検証している。本文書作成に当たっては主に、経済協力開発機構 (OECD) の開発援助委員会 (DAC) データベースおよび債権国報告システム (CRS) のデータを分析した。¹

政府開発援助の傾向についての概観

ii. ODAの規模と条件に関する主な傾向:

- ODA資金は過去10年間に着実に増え続け、2005年のODA拠出純額は1,050億ドル(2004年基準値)に達した。
- 近年のODA増額分の大半は債務削減によるもので、このほかに緊急支援とドナーの管理費も一部を占めた。実質ベースでは、債務削減だけで、2004年から2005年のODA増額分の70%近くを占めている。
- 対照的に、中心的開発プログラムに対するODAは1990年代末から再び拡大しているものの、ODA全体と比べるとその拡大率は比較的小さい。中心的開発プログラムに対するODA拡大率が2001年から2005年に年間平均4.6%であるのに対し、同じ期間にODA全体は年間平均11.4%増えた。²
- 多国間ODAのための主要なチャンネルとしての役割は、1990年代以降、欧州委員会や国連システムがIDAに勝るようになっている。
- ODAの条件は次第に譲許的になってきており、二国間ODAの90%近くが贈与の形で提供されている。

iii. 途上国に対するODA配分における主な傾向

- IDA適格国では近年、1990年代初頭と比べ、中心的開発プログラム用として受け取るODAの平均額が減少している。
- IDA適格国の中心的開発プログラムを対象としたODAに占めるIDAの割合は、純拠出ベースでも拡大している。
- 総予算およびセクター・プログラム支援がODA拠出表明済み総額に占める割合は、2001年の8%から2004年には20%に拡大した。
- 低所得国に配分可能なセクター別ODAに占める社会セクターの割合は、1990年代初頭の29%から2001-2004年には52%に増えた。

¹ DAC スタッフによる貴重な貢献に感謝する。

² 過去10年間には、それぞれ年間2.8%と5.4%増えた。

- 一方、同じ期間に、インフラと生産の両セクターを合わせた割合は59%から38%に下落した。

複雑さを増す国際援助構造

iv. **援助チャンネルの急増、ODA細分化、用途指定の多さが、国際援助構造の複雑さを増大している。**データを分析したところ、途上国と接触する二国間および多国間援助機関が急増していた。例えば、1つの国に対するドナーの数を平均すると、1960年には約12だったのが、2001-2005年には約33に増えていた。さらに、現在では国際機関、基金、プログラムの数は230以上に上る。ドナーの急増は保健セクターにおいて特に著しいようで、100以上の主要機関が活動している。また、具体的な用途を指定したり、グローバル・プログラムや「垂直」基金など特別目的機関に援助資金の用途を限定したりするケースが増えてきている。事実、2005年に多国間チャンネルを通じて拠出されたODAの約半分は、対象となるセクターやテーマがある程度限定されていた。ODAの「垂直化」あるいは用途指定は、一部の二国間援助プログラムにも見られる。2004年に関して揃っているデータによると、財務規模の小さい多数の援助活動が行われている傾向がある。

v. **援助構造の複雑さゆえに、ドナー・途上国の両方にとって手続き費用が増大し、ひいては援助効果が損なわれている。**援助の手続き費用は体系的に数値化されているわけではないが、ドナーの急増と援助の細分化が途上国の実施能力にとって重荷となっていることが裏付けられている。

vi. **非DACの「新興」ドナーがODA拠出元として次第に重要性を増している。**新しいドナーは、途上国がMDGを実現するのを支援するための資源が増えることを意味する。同時に、調和化や整合など新たな課題も生まれる。非DACのドナーは異質なグループである。援助資金拠出に関してDACのアプローチや基準がどの程度まで非DACドナーに適用されるかは、国によって異なる。非DACのODAに関するデータは不十分であるため、こうしたドナーからの援助の規模や見通しを正確に見極めることは困難である。非DACのOECD諸国だけでも合計すると、2010年までに現在のODAレベルが20億ドル以上に倍増すると見られている。

まとめ

vii. **ODAは過去10年間に着実に増大した。また、ドナーがMDG達成のために援助を大幅に拡大すると明言しているため、今後も増大するものと見られる。**このように拡大されたODAを国レベルで効果的に活用するためには、ドナーと途上国が実施上のいくつかの課題に対応していく必要があるだろう。重要な課題としては以下が挙げられる。

- 国、地域、世界の開発優先課題・プログラムの中で相互に補完すること
- ODAが拡充され迅速に拠出される中、途上国がそうした援助を効果的に活用できるよう能力を強化すること(予算面の支援など)

viii. **国、地域、世界の開発優先課題・プログラムの相互補完の基盤は、パリ宣言の理念と目標の中に見出すことができる。**さらに、プログラムのODAは、最近の債務削減イニシアティブにより使えるようになった資金と共に、国家システムが強化されれば、国レベルでの有効活用をさらに促進できるだろう。